

# 平成30年度自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1. 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、学力の向上を図るとともに、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。	① グループ学習、調べ学習、学び合い学習などの主体的・対話的で深い学びとなる工夫を意図的・計画的に授業に取り入れられる。	教務課	昨年度の授業評価で「考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が他のアンケート項目より低い。	【努力指標】 主体的・対話的で深い学びを促す発問や課題を授業に取り入れている。	「先生は、考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、授業形態、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。
	② 発表や討論、事例検討などを通して、他者との対話、思考する場を授業に取り入れる。	教務課	授業への参加態度は良好である。さらに、自らが課題を発見し、協働して解決するなどの主体的に学ぶ姿勢を身につける必要がある。	【満足度指標】 生徒自らが課題を発見し、協働して解決しようとしている。	「班活動等では、積極的に参加することができた」と自己評価をした生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、指導方法を再検討する。	自分自身の学習の取り組みに対する評価を7月・12月に実施する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習の専門科目全ての偏差値40未満の生徒が0人である。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
			国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	国家試験演習の偏差値40未満の生徒が0人である。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
④ <1、2年生> 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。 <3年生> 分野毎の小テストや個別指導を実施することで、専門知識の確実な定着を図る。	健康福祉科	<1、2年生> 家庭学習の習慣化が十分にできていない。  <3年生> 国家試験で一定レベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 <1、2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が100%である。  <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が100%である。	<1、2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。  <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。	<1、2年生> C以下の場合、面談を行う。  <3年生> B以下の場合、指導方法を再検討したり、個別指導を実施する。	課題の取組状況を毎日チェックし、その集計を月ごとに行う。  国家試験演習ごとに確認する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2: 田鶴浜の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身の育成を図る。	① 「田鶴浜高等学校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒指導課 教育相談課	SNSでの不適切な表現から、生徒間のトラブルに発展する場面も見られる。	【成果指標】 各種講演会や授業等を通して人権教育の啓発を図ることで、「いじめを絶対に許さないという意識」について「大いに高まった」と「高まった」の割合が90%以上である。	アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、いじめの未然防止の取組を見直しをする。	6月、11月に全校生徒対象のいじめアンケートを実施する。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	生徒指導課	昨年度第1回保護者アンケートでは85.3%、第2回では89.2%であった。新年度も継続した粘り強い指導で100%に近い結果となるよう、挨拶力の向上を目指す。	【成果指標】 保護者アンケートで「立ち止まって挨拶できている」の回答が90%以上である。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶できる」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、指導法と取組の見直しをする。	PTA総会、7月と12月の保護者懇談会の際に、計3回のアンケートを実施する。
	③ 生徒、職員に声かけを行うことにより部活動参加率向上を図る。	生徒会	総体以降、部活動の参加率が減少する傾向がある。	【成果指標】 生徒が部活動に積極的に参加する。	アンケートにて「参加できる日はほぼ参加できた」生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	CまたはDの場合は取組方法を検討し、呼びかけ等を行う。	7月、12月にアンケートを実施する。
	④ 全身持久力の向上を目的とした取り組みを行い、心身ともに健全でたくましい生徒の育成を目指す。	体育科	昨年度の新体力テストの結果から、持久力の項目で県平均より劣っている生徒が多い。	【成果指標】 新体力テストの20mシャトルランテストを春と秋の2回計測を行い、秋の記録が春の記録と比較して1割以上向上している。	秋の記録が春の記録と比較して1割以上向上している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	Dの場合は、到達していない生徒に対して個別指導を行う。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3:本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	①:体験入学、学校説明会、個別説明会の説明内容を充実させるとともに、学校公開日、学校祭等への中学生の参加者数の増加を図り、本校の教育活動とその成果の広報を強化する。	総務課 教務課	地域の医療機関・福祉施設等への就職者数は維持している。健康福祉科の志願者数は十分ではない。	【最終成果指標】 昨年度より本校の志願倍率が上回っている。	一般入試の志願倍率（学校倍率）が1.10倍を  A 上回った。 B 同程度だった。 C 下回った。 D 大きく下回った。	C以下の場合 は、広報活動の方法の見直しをする。	
	②:体験入学、学校説明会、出前授業などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。	衛生看護科	5年一貫教育における看護師養成についての中学校教諭及び保護者、生徒の理解が十分とは言えない。	【成果指標】 体験者アンケートで「5年一貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が90%以上である。	体験者アンケートで「5年一貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合 は、広報活動の方法の見直しをする。	体験入学、学校説明会、出前授業などの際、その都度アンケートを実施する。
	③:小・中学校での出前授業や地域との交流会、講習会を通して、福祉や本校への理解を深める。	健康福祉科	小学生・中学生、それぞれの保護者、地域住民等の健康福祉科に対する理解が十分ではない。	【成果指標】 出前授業や地域との交流会、講習会を通して、福祉や本校への関心が高まる。	アンケートで「福祉や本校健康福祉科への関心が大変高まった」の回答が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合 は、説明の内容や方法の見直しをする。	活動毎にアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4:業務改善の推進により教職員の多忙化の改善を図る。	①:業務分担の適正化を図り、時間外勤務時間の平均を前年度より減少させる。	管理職	教員間で、大きなバラツキがあるが、昨年度の勤務時間外勤務は平均で月50時間である。	【努力指標】 多忙化改善のため、学校業務の平準化を図り、時間外勤務時間を縮減させる。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が40時間未満の教員の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 である。	C以下の場合、改善方法を再検討する。	毎月の勤務時間記録をもとに判断する。